

Vision
実現したい
未来

**人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、
自然と調和して生きる世界**

私たちが目指すのは、それぞれの民族が対立することなく、共に助け合い、人間は、母なる地球のいのちの循環の一部であることを認識し、いのちの源である太陽や水、空気、土が永く未来にわたって守られ、すべてのいのちが健やかに生きる世界です。

Mission
日々果たすべき
使命・存在意義

**私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、
感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、
共に助け合う社会づくりに取り組みます**

私たちは、人間も母なる地球のいのちの循環の一部であることを認識し、すべてのいのちが生き生きと輝き、健やかに守られるよう、「感謝」の心を持つ「人」を育み、水や土、植物、動物、人間の生活の土台となる森づくりや、あらゆる困難を共に乗り越え、助け合う社会づくりに取り組みます。

Value
私たちが大切に
していること

互いを理解し尊重

オイスカの活動の基本は、それぞれの民族が持つ歴史や文化、宗教などの違いを理解し尊重する相互理解、相互尊重の精神を土台に据えた“相互協力”です。その上で技術を伝えなければ、技術という種は、決してその地に根を張ることはありません。

土から離れない

大自然の摂理に基づく土づくりから始まる環境保全型農業を通じて「人」を育み、農村開発などの実践を通して大地の恵みの尊さ、自然と共に生きることの大切さを共有します。大地の恵みに感謝する心は、農業のみでなくすべての行動に共通しています。

感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む

人間が大自然の中で生かされている存在だと自覚し、すべてに感謝し、恩返しをする心を養い、何事にもへこたれない「人」を育んでいきます。単なるノウハウや技術の伝達にとどまらず、共につながりあうことで、苦難にもへこたれない心が育ちます。

地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

課題に向き合い、解決に向けて立ち上がろう、一步を踏み出そうという意味に寄り添い、よく話し合いながら、その土地の実情に合った方法で、手を携えて地域づくり、国づくりを進めることがオイスカのモットーです。

Spirit

Visionを達成するために、私たち一人ひとりが日々実践する心のあり方

- 1. 先を展望する想像力を持つ
- 2. 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 3. 仲間とともにチーム力を発揮する
- 4. 挑戦し続ける
- 5. 経験から学び進化する
- 6. 感謝の心を持つ
- 7. 真摯である
- 8. へこたれない
- 9. 人間味あふれ、楽しみながら！



オイスカ60周年記念 国際シンポジウム
OISCA 60th Anniversary International Conference 2021.10.6



オイスカは、すべてのいのちに感謝する人を育み、地域の人たちと共に、土や森、地域、社会を育み、そして、私たちが生かして下さるこの地球で生きていきます。

ビジョン
(実現したい未来)

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、
自然と調和して生きる世界

2030年

2021年

地球規模課題

- ・地球環境の劣化
- ・地球温暖化
- ・多発する自然災害
- ・生物多様性の減少
- ・食の安全への脅威
- ・若者の農業離れ
- ・農村部の過疎化
- ・貧困層の拡大
- ・環境教育、SDGs教育の遅れ
- ・社会の分断と対立

SDGs「行動の10年」
パートナーシップの強化

BE the SOLUTION!

EBS
(Eco-System based Solution)
自然を守り育み、
その力を活用した取り組み

2つの社会課題解決
アプローチ

BBS
(Business based Solution)
ビジネスセクターとのパートナーシップ
とソーシャルビジネス

重点活動

【モデル緑化事業の推進】

蓄積した技術とアイデアで緑化を推進。国際機関や現地政府・NGO等への波及を狙い、情報発信、連携力を強化 (50,000ha)

【青少年との地域課題への取り組み(「子供の森」計画)】

学校単位での緑化を通じた環境教育活動に加え、地域課題解決への取り組みを強化。モデル活動を見出し、世界各地のプログラム参加校へノウハウを共有 (参加者数 50万人、新規参加国 5カ国)

【持続可能な地域開発事業の実施】

地域の課題やニーズに応じた緑化や環境教育、循環型有機農業などの社会開発等の実施 (4カ国 10事業)

【持続可能な農業研修の推進と普及】

日本の3カ所の研修センターにて、海外の研修生への有機農業・環境・食をテーマとした研修を通じて、帰国後、各事業の推進役となる人材を育成 (300人)

【共に生きる社会づくりのための技能実習生受入】

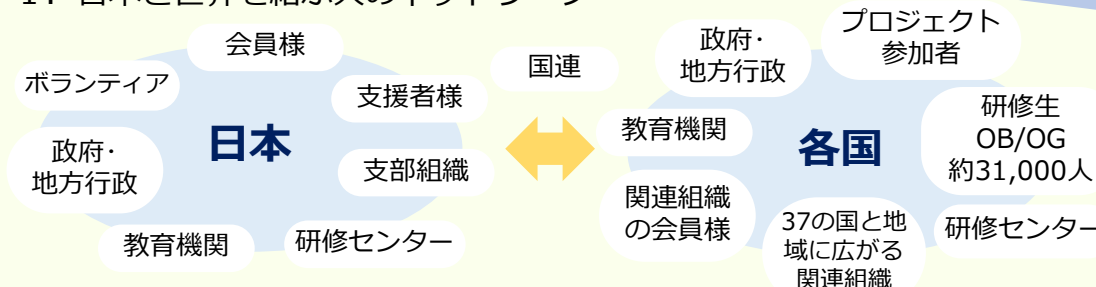
技能実習制度の本来の目的「各国の産業発展へ貢献し得る人材を育てること」を基本とし、日本と出身国を結ぶ懸け橋となることを目指し、実習生、日本社会、出身国社会すべてに恩恵がある受入れ体制を確立 (3,500人)

【ソーシャルビジネス推進】

日本と世界を結ぶオイスカの人的ネットワークを活かしたソーシャルビジネス連携の展開

強み

1. 日本と世界を結ぶ人のネットワーク



※数値は10年間の累計

2. 農業を中心とした人材育成、緑化、農村開発等の知識とノウハウ
3. 地域密着型支援の継続による信用と信頼

10年後の
ありたい姿

- ・地球環境の保全・再生、温暖化防止への貢献
- ・自然災害のリスクや被害の軽減に貢献
- ・国や民族、宗教などの違いを理解し、共に助け合う社会づくりへの貢献
- ・SDGs達成に向けた行動の促進、パートナーシップの推進に貢献